

東京登龍会 24年2月3日（講話メモ）

自己紹介

秋田県出身（本籍秋田市）。その後、東京に移住。2度の学童疎開により、米沢市、次いで福島県矢吹町に移住。矢吹中学校より白河高校へ進む。

白高1954年3月卒業（第6回生）。1958年3月一橋大学（社会学部）卒業。野村証券に就職（この間、61年～63年ロンドン大学に留学）、12年後1970年英国の証券会社（Vickers da Costa）に転職。1970～1979年はロンドン本社、1980～88年は東京支店に勤務（この間85年～88年会社はシティバンクの合併子会社となる）。1989～92年スイス銀行（現UBS）に勤務。いずれも取締役として証券部門の日本代表。Vickers社在籍中はロンドン証券取引所正会員。

演題 「鈴木義男と白河以北」

談話の趣旨は郷里の偉人、鈴木義男の業績を広く知って戴くこと、白河市周辺の歴史を再認識し、合わせて、とかく引っ込み思案の白河以北の東北人に積極性を期待することにあります。

鈴木義男については鈴木が学んだ東北学院普通科（中等部）と同じ学園（東北学院大学）の後輩である仁昌寺正一氏の著書『平和憲法を作った男 鈴木義男』（2023年1月発行）があります。「平和憲法を作った男」という表題は鈴木氏の広範な業績の一部を代表させたものにすぎず、学者、弁護士、政治家としての鈴木氏の生涯の業績にはこれらのすべての分野において目覚ましいものがあります。

鈴木義男についてはほかには鈴木義男伝記刊行会による私家版の『鈴木義男』（1964年12月刊行）1冊があるだけで、それも伝記ではなく鈴木氏の為人（人となり）を知る各界多数の著名人の寄稿よりなるものです。仁昌寺氏の著書も鈴木義男の死後60年にして初めて出されたものです。残念なことに、鈴木義男の事績はこのように世に知られるところが真に少ないのです。

白高は2年前に創立100周年を祝いました。私は創立30周年の時に2年生でした。以来、今日まで70年の年月を過ごしております。その時のささやかな祝典の一つに白河中学第二代校長、工藤正勝先生が来賓として祝辞を述べられました。校歌「西秀麗的那須の峰」の作詞者です。遠路はるばる熊本から来校されて、6年に及んだ若き日の情熱を思いだされて文字通り「声涙共に下る」講演を行われました。私にとっても忘れ難い経験でした。このようなことを思い出す人、知っている人はもうほとんどいないでしょう。私はこのような古い、昔のことを思い出すのですが、その後の長い70年間の出来事は何も知らないのと同然です。この懇親の機会にご参会の諸兄からもお話を伺えれば何よりと思っております。

23年11月13日 大島昌二